

小中さんとセルビアの友人

戦争最中のベトナムを訪れ、危うかった体験を打ち明けてから、小中さんとは一層心を開くようになった。

戦前のゾルゲ事件で、ゾルゲとともに活動し獄死したブランコ・ド・ブケリツチの遺児、山崎洋氏とは旧ユーゴスラヴィアで現地通訳として出会い、はからずも大学も学部も学年も同じであると分かり、爾来、海を越えて交流を深めている。大学卒業と同時に母親の許を離れ、父の母国へ赴き、研鑽を積まれて社会活動、執筆活動に携わっている。そして一時帰国中にゾルゲ事件に強い関心を抱かれていた小中さんを紹介した。

その後、小中さんが国際ペン大会のためユーゴを訪問し、当地の関係者にこの父親の母国に遺児が在住し、両国の親善のために活動していると話したところ、みな驚かれたという。

山崎氏の両親を採り上げた映画「スパイ・ゾルゲ」(二〇〇三年六月公開)では母親は和服を召されていたが、試写会を観た彼から、実際は洋装だと聞いた。それを小中さんから篠田正浩監督に伝えてもらったところ、監督からこの場面は衣装担当の森英恵氏の強いこだわりで和服に決めたと同った。

私たち三人は社会的価値観を共有し、打ち解け合える飲み仲間でもあった。小中さんの訃報をセルビアの友人に知らせると悲しまれた。もう三人で話し合うことはない。

(エッセイスト・近藤節夫)